

1992年度事業報告書

1. 事業の状況

深刻な不況からの脱出の出口がみえないまま終わった1992年度は企業メセナにとっても厳しい年であったと云えます。そして、メセナに関する社会の関心は、前年までのブームとさえ云える追い風的なものから一転して逆風的なものに変化しました。その影響は当協議会にとっても無縁ではなく、会員数の推移などに現われました。新たに入会した企業があった反面、経営の悪化によって退会した企業も数社あり、正会員数は年度初めに比べ若干の減少を余儀なくされております。しかし、この減少も不況の深刻さから見れば影響は微々たるものであり、殆どの会員企業が引き続き当協議会の活動を支援しております。これは企業メセナを一過性のものとして捉えるのではなく企業の長期的経営戦略の一環として不可欠な活動であるとの認識がより一層企業に定着してきているからだと考えます。今回の厳しい経済環境は、企業メセナについて真剣に考えるきっかけを企業に与え、企業メセナの質を向上させる役割を果たしたとも云えましょう。当協議会の調査によれば、91年度と比較して92年度にメセナの支援金額や支援件数を増やした企業は減少した企業よりはるかに多いことが明らかになっており、企業メセナが着実に根付いていることを示しています。

このような環境の中で、1992年度の当協議会の事業活動は次の4点を中心に展開いたしました。

①定例的諸事業運営の円滑化

1991年度には、『メセナ自書91』や「メセナ大賞91」など当初計画された当協議会の各事業を一通り実施しましたが、92年度はこれらの事業が定例的に推進できるよう体制の整備と実績づくりを行ないました。

②助成仲介の積極的関与

『メセナ』誌上に助成要請情報を掲載し助成仲介を行なってきましたが、より積極的に仲介活動をすることにし、新たにメセナモデル研究会を設置して協議会として是非実現したいアーティストの活動を選定し会員企業に積極的に仲介しました。

③主体性のある国際交流

これまでは、海外で開催されるメセナの国際会議に代表を派遣してまいりました。92年度は、国際会議への参加のほか、当協議会とBCA主催による第1回日米メセナサミットをニューヨークで開催し、メセナ先進国のメセナ事情をつぶさに視察し研修するとともに彼我の企業人と芸術家、芸術団体との対話を通じて具体的成果をあげました。

④優遇税制

メセナに関する税制上の優遇措置を政府に求めることは当協議会設立当初からの懸案事項であり、税制部会で検討を進めてまいりました。92年度は当協議会の要望書を大蔵省、文化庁に提出し具体的な折衝に入りました。その結果、当協議会の特定公益増進法人化という方向づけが得られました。

以下、事業並びに収支結果についてご報告いたします。

1. 事業報告

各事業の具体化は、各専門部会、プロジェクトのメンバーを中心に推進しました。その実施状況は以下の通りであります。

1.1 会員数状況

会員数は3月31日現在、正会員 177社 466口、準会員38社42口となり、1992年度期首に比べ、正会員 6社減、準会員 5社増となっております。

1.2 事業の実施状況

① 啓発普及事業

企業のメセナ担当者が業務を遂行するうえで必要な芸術各分野についての理解を深めることを目的として「企業のメセナ活動を考えるセミナーII—アートを学ぶ」を開催いたしました。これは、美術、舞踊、演劇、音楽の各分野について各界の第一人者を講師に迎え、現在に至るまでの歴史的な推移を知り、メセナに役立たせようとしたものです。講師には河竹登志夫、高橋康也、三浦雅士、難波英夫、林光の各氏をはじめ12名の先生方をお願いし12回開催しました。また、7月10日には美術分野の特別講座として「ドクメンタ9報告会」を開催し、現代美術の流れについての理解を深めました。

さらに8月3日から電通ギャラリーにて「企業メセナ情報展」を開催しました。また、昨年に引き続き「文化フロンティア会議'92」を文化バステルと共催で9月7日に開き、慶応大学島田晴雄教授、天野祐吉氏らにより「これからのメセナ、フィランソロピーを考える」をテーマに鼎談、シンポジウムを行いました。

会員企業とアーティストや文化団体との相互理解の場とする定例会は4月17日「障害者たちとのクリエイティブ・ムーブメント・レッスン」、5月29日「MUSIC TODAY'92」、7月7日「サントリーホール見学と七夕コンサート」8月21日～22日「佐渡からの芸術発信」、10月19日山口正之氏の講演会「日米のメセナ活動—アメリカの経験から何を学か」、2月10日「P3見学会」と題し計6回開催しました。

② 情報集配・仲介事業

『メセナ』誌の助成要請情報の他、企業と芸術団体との積極的仲介の推進を目的に、4月に「メセナモデル研究会」を発足いたしました。第1回支援モデルとして「パニョレ国際振付賞」に参加する「黒沢美香とダンサーズ」を選定し、会員企業に渡航費などの支援を仲介した結果、日社から総計360万円が集まりました。さらに第2回支援モデルとして「サン・ヴィゴール・ド・ミュール礼拝堂の修復と作品化」、第3回支援モデルに「P3」「山海塾」が選定されました。

なお、『メセナ』誌は93年春号より一般向けの内容に一新し、一部書店での販売を始めております。

③ 調査研究事業

昨年度に引き続き『メセナ白書'92』を8月に刊行いたしました。今回は前年度より約100社多い455社からの回答を得ました。調査結果にはメセナ活動が着実に企業内に定着しつつある状況が示されております。92年度下期から93年度版の調査にとりかかりましたがほぼ前年並みのメセナ実施企業から回答を得ております。また、11月には首都圏在住の一般市民を対象にメセナに関する意識調査を実施しました。この他、芸術団体に対しても企業メセナに関する調査を予定しており、いずれも93年度版白書に掲載いたします。

④ 顕彰事業

「メセナ大賞'92」は全国139企業より201事業の応募がありました。この応募をみまますと、経済状況が厳しいなかで全国各地で多様なメセナ活動が積極的に展開されていることが判り、メセナが着実に広がっていると云えます。92年度メセナ大賞は「例すかいらーく」が受賞、8社がメセナ特別賞、メセナ賞を受けました。

⑤ 国際交流事業

5月6日から12日にかけて、米国ニューヨークで日米メセナサミットを開催いたしました。日本からは堤副会長をはじめ、福原理事長、柴田理事、根本専務理事など14名が参加、米国からはBCAオング会長、チェース・マンハッタン銀行元会長ブッチャー氏、フィリップ・モリス社元会長ワイスマン氏らが出席し、米国の企業メセナ活動の現状、芸術団体運営等についての報告を受け、さらにメセナについての日米の意見交換が行われました。

その他、5月22日にはローザンヌ国際バレエ・コンクールの創設者であるド・ブランシュワイグ氏を招いて「産業界と芸術界—コミュニケーション・ギャップの解決の仕方」と題しての講演会を開催しました。

⑥ 税制問題への対応

第5回通常総会で報告した税制改正に関する当協議会の基本的考え方のもとに、8月に税制改正に関する要望書を大蔵省、文化庁に提出しました。これを契機に両省庁と当協議会の間で優遇税制に関する折衝が行なわれ、最終的に、当協議会を特定公益増進法人に認定し、当協議会の口座を経由しての企業メセナを免税の対象にすることで大蔵省と文化庁の話し合いがつかしました。この線にそって当協議会は定款の変更を第6回通常総会に提案し承認頂き、特定公益増進法人化に向かって諸準備を行なっております。

個別の事業実績については別紙1にてご報告いたします。

2. 収支報告

2.1 収入

1992年度の年間収入予算 14560万円（会費収入 13790万円、事業収入 500万円、雑収入 270万円）に対し、12815万円（会費収入 12104万円、事業収入 436万円、雑収入 275万円）計画比88,0%の実績となりました。これは会員獲得が目標を達成できなかったことによるものです。

2.2 支出

年間事業費予算は8950万円、管理費予算は6565万円、予備費1690万円、計 17205万円ですが、実績は事業費7058万円（計画比78,9%）、管理費5780万円（計画比88,0%）、支出合計 12839万円（計画比74,6%）となり、2681万円が次年度繰り越しとなりました。しかし、当期のみの純収支で見ますと収入 12815万円に対し、支出は 12839万円となり24万円の支出超過となります。当期間の貸借対照表、収支計算書、正味財産増減計算書、財産目録は別紙Ⅱの通りです。

別紙 I

I. 啓発・普及事業

1. 定例会

- ①4月17日 勸角証券新宿中央支店 7名
テーマ 「カ'オルガ'ンク'・シタ'ク'氏による障害者たちとのクリエイティブ・ムーブメント・レッスン」
- ②5月29日 銀座セゾン劇場 23名
「MUSIC TODAY'92」
- ③7月7日 サントリーホール 86名
「サントリーホール見学と七夕コンサート」
- ④8月21日・22日 佐渡・鼓童村 9名
「佐渡からの芸術発信」
- ⑤10月19日 資生堂別館 44名
講演会「日米のメセナ活動～アメリカの経験から何を学ぶか」
講師 サントリー文化財団事務局長 出口正之氏
- ⑥2月10日 P 3 art and environment 17名
蔡國強「龍脈」展

2. 企業のメセナ活動を考えるセミナー：アートを学ぶ

- ①4月1日 東京芸術劇場 36名
テーマ 美術(2)「マルセル・デュシャン以降」
講師 セゾン現代美術館学芸部長 難波英夫氏
- ②4月27日 朝日スクエア 34名
テーマ 美術(3)「ルネサンスから印象派まで」
講師 上智大学講師 井出洋一郎氏
- ③5月15日 東京芸術劇場 23名
テーマ 舞踊(1)「いま、なぜダンスか」
講師 『ダンス・マガジン』編集長 三浦雅士氏

- ④6月5日 東京芸術劇場 23名
 テーマ 舞踊(2)「世界を代表するバレエ・ダンサーたち」
 講師 明治大学助教授 土屋恵一郎氏
- ⑤6月23日 東京芸術劇場 22名
 テーマ 舞踊(3)「ダンスの歴史」
 講師 法政大学助教授 鈴木晶氏
- ⑥7月10日 朝日スクエア 64名
 テーマ 美術特別講座「ドクメンタ9 報告会」
 講師 名古屋造形芸術短期大学教授 中村英樹氏
- ⑦7月29日 東京芸術劇場 34名
 テーマ 演劇(1)「歌舞伎から新劇まで」
 講師 早稲田大学名誉教授 河竹登志夫氏
- ⑧9月18日 東京芸術劇場 28名
 テーマ 演劇(2)「シェイクスピアから西欧現代演劇まで」
 講師 東京大学名誉教授 高橋康也氏
- ⑩10月8日 朝日スクエア 34名
 テーマ 演劇(3)「アンダーグラウンド演劇から野田秀樹まで」
 講師 朝日新聞編集委員 扇田昭彦氏
- ⑪12月15日 東京芸術劇場 33名
 テーマ 音楽(1)「クラシック音楽とは何か～西洋音楽史を展望して」
 講師 国立音楽大学教授 礪山 雅氏
- ⑫1月25日 東京芸術劇場 31名
 テーマ 音楽(2)「音楽の二十世紀～変わるものと変わらないもの」
 講師 作曲家 林光氏
- ⑬3月2日 東京芸術劇場 35名
 テーマ 音楽(3)「非西洋の音楽～物質文明を否定した音」
 講師 打楽器奏者 高田みどり氏

3. 事業共催

①文化支援研究討論会 6月12日 北とびあ 70名

共催 首都圏文化行政研究会

出席者 サントリー(株) 文化事業部課長 伊嶋高男氏

(株)西武百貨店 営業企画室部長 櫻井精一氏

トヨタ自動車(株) 広報部課長 北川哲夫氏

前水戸芸術館 事務局長 横須賀徹氏

元横浜市 文化事業係長 野田邦弘氏

荒川区 文化青少年課主査 仲村 順氏

コーディネーター 首都圏文化行政研究会代表 森 啓氏

②企業メセナ情報展 8月3日～13日 電通ギャラリー 968名

共催 (株)電通

③文化フロンティア会議'92 9月7日 経団連ホール

共催 文化バステル

テーマ 「これからのメセナ、フィランソロピーを考える」

基調講演 慶應義塾大学教授 島田晴雄氏

美術館運営管理研究者 岩淵潤子氏

企業メセナ協議会専務理事 根本長兵衛氏

パネリスト 劇作家・演出家 如月小春氏

ジャーナリスト コリーヌ・ブレ氏

落語家 春風亭小朝氏

文化バステル企画委員長 天野祐吉氏

コーディネーター 文化バステル副理事長 大山勝美氏

II. 情報集配・仲介事業

1. 『メセナ』誌の発行

9号(6月) 10号(9月) 11号(12月)

部数 各3000部 A4版 32頁

2. 『メセナ白書'92』の発行

8月31日発行 部数5000部 B5版 274頁

Ⅲ. 顕彰事業

1. メセナ大賞1992

- 4月1日 募集要綱発表
6月30日 応募締切 139社 201事業
9月21日 第1回審査委員会
10月14日 第2回審査委員会
11月30日 授賞式 草月会館

Ⅳ. 国際交流事業

1. 派遣

- ①日米メセナサミット 5月6日～12日 ニューヨーク 14名
5月6日 午前 セッション「企業の芸術支援の論理的根拠」ほか
午後 セッション「企業と芸術のパートナーシップに
いかなる価値があるか」ほか
5月7日 午前 セッション「リンカーン・センター
における企業の役割」ほか
午後 リンカーン・センターの見学ほか
5月8日 午前 セッション「企業と音楽の
関係」ほか
午後 セッション「企業と文化の
関係」ほか
5月11日 午前 セッション「企業と美術館の
関係」ほか
午後 セッション「企業と演劇の
関係」ほか
5月12日 セッション「芸術と企業の
パートナーシップを確立し
ていくための日米協力」ほか
- ②アドミカル国際大会 6月11日～12日 アルル 1名
- ③メセナ国際会議 3月11日～13日 バリ 1名

2. 受け入れ

- ①講演会 6月22日 朝日スクエア 51名
テーマ 「産業界と芸術界～コミュニケーション・ギャップの解決の
仕方」
講師 ローザンヌ国際パレエコクール理事長

F. ブランシュワイグ氏

以 上

II 処務の概要

1. 役員に関する事項

役員	氏名	就任年月日	担当職務	手当	略歴
理事	鈴木 治雄	1990.2.14	会長	60万円 (月額)	昭和電工名誉会長
	佐治 敬三		副会長		サントリー会長
	塚木 幸一		"		ワコール会長
	堤 清二		"		セゾンコーポレーション会長
	西尾 信一		"		第一生命会長
	福原 義春		理事長		資生堂社長
	天谷 直弘				電通総研社長
	石川 六郎				鹿島建設会長
	稲森 和夫				京セラ会長
	大賀 典雄				ソニー社長
	中江 利忠				朝日新聞社社長
	平岩 外四				東京電力会長
	松沢 卓二				富士銀行相談役
監事	根本 兵衛	1990.7.11	専務理事	60万円 (月額)	共立女子大教授
	中村 一郎				第一勧銀会長
	吉野 照蔵				清水建設会長
	椎名 武雄				日本アイ・ビー・エム社長
	柴田 俊治				朝日放送専務
	関本 忠弘				日本電気社長
	竹中 統一				竹中工務店社長
	豊田 章一郎				トヨタ自動車会長
	三沢 千代治				ミサワホーム社長
	後藤 康男				1991.4.1
理事	関沢 義	1992.4.1			富士通社長
	松橋 功				日本交通公社社長
	山口 開生				日本電信電話会長
	樋口 広太郎				アサヒビール会長

2. 職員に関する事項

職務	氏名	就任年月日	担当事務	手当(月額)
事務局次長	高井 光子	1990.2.14	会計・事務	47万円
"	岩瀬 慶孝	1990.4.9	総務・事業	なし
課長	林 はる芽	1991.4.1	事業	30
	野呂 健男	1990.2.14	事業	21
	久保田 大介	1992.4.1	事業	18
	小池 佐知子	"	事業	18

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
1992. 6. 22	1. 1991年度事業並びに収支決算報告の件 2. 新会員承認の件	可 決 可 決
1992. 12. 14	1. 新会員承認の件 2. 定款変更の件	可 決 可 決
1993. 3. 24	1. 新会員承認の件 2. 役員候補者承認の件 3. 助成選考委員会設置の件 4. 1993年度事業計画及び収支予算案の件	可 決 可 決 可 決 可 決

(2) 総会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
1992. 6. 22	1. 1991年度事業並びに収支決算報告の件	可 決
1993. 3. 24	1. 定款変更の件 2. 役員改選の件 3. 1993年度事業計画及び収支予算案の件	可 決 可 決 可 決

4. 許可、認可及び承認に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

該当なし

7. 主務官庁指示に関する事項

該当なし